

もっと安心農産物 キャベツ (冬どり) 栽培暦 (令和2年)

JAちばみどり 海上野菜組合産直部

1. 土づくり

・完熟堆肥2トン/10aを施用するか、エン麦・ギニアグラス・ハブソウを輪作体系として作付けする

2. 施肥 ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守 **化学肥料窒素成分使用量14kg/10a以下**

基肥は①、②のいずれかを選択する。

	肥料名	施肥量
基肥	①マイルドユーキ030号 (10-13-10 有機態窒素 5.3)	100kg/10a以下
	②エコレット866(8-6-6 有機態窒素 4.1)	140kg/10a以下
	苦土石灰	60kg/10a
追肥	マイルドユーキ030号 (10-13-10 有機態窒素 5.3)	60kg/10a

3. 防除 **化学合成農薬 8成分回数まで(苗購入の場合6成分回数まで)**

(Zボルドー・スピノエース顆粒水和剤・エスマルクDFは、化学合成農薬に含めない)

月	管理作業	病虫害の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	回数	対象病虫害	備考 (耕種的防除の実施等)	
8月中旬	播種	ネキリムシ ↑ ヨトウムシ ↑ 黒腐病・べと病 ↑ コナガ ↓	①ネビジン粉剤 又は ネビリュウ	20~30kg/10a (播種又は定植前)	2回	根こぶ病	害虫の発生量を減らすため圃場周辺の除草をする 育苗床は害虫防除のため寒冷紗でトンネル被覆をする	
下旬			②カルホス微粒剤F	6kg/10a (播種時又は植付時)	1回	ネキリムシ類		
9月上旬	定植		③フォース粒剤	4kg/10a (定植時)	1回	ネキリムシ類		
			エスマルクDF	1000~2000倍 発生初期→(但し、収穫前日まで)	—	コナガ		
中旬				1000倍 発生初期→(但し、収穫前日まで)	—	ヨトウムシ ハイマダラノメイガ		
下旬				④コルト顆粒水和剤	3000~4000倍 (収穫前日)	3回	アブラムシ類	
					3000倍 (収穫前日)		ネギアザミウマ	
				⑤コテツフロアブル 又は ⑤プレオフロアブル	2000倍 (収穫前日)	2回	コナガ ヨトウムシ	
10月上旬	追肥 土寄せ			Zボルドー	500倍 (—)	—	黒腐病・べと病	土寄せ後黒腐病の防除を実施する
中旬				スピノエース顆粒水和剤	2500~5000倍 (収穫3日前)	—	コナガ ヨトウムシ	
下旬	結球 初期						アブラムシ類発生の場合は、⑩モスピラン顆粒水溶剤 2000~4000倍 (収穫7日前・5回)を散布する	
11月上旬			エスマルクDF	1000倍 発生初期→(但し、収穫前日まで)	—	コナガ ハイマダラノメイガ		
				1000倍 発生初期→(但し、収穫前日まで)	—	ヨトウムシ ハイマダラノメイガ		

中旬	収穫	⑥アファーム乳剤	1000～ 2000倍 (収穫前日)	3回	コナガ ヨトウムシ	降雨が多い場合は、菌核病防除 の為、⑪セイビアーフロアブル 20 1000倍 (収穫3日前・3 回)を散布する
下旬		⑦プレバソフロアブル5	2000倍 (収穫前日)	3回	アオムシ ヨトウムシ	ヨトウムシが多い場合は、⑫フ エニックス顆粒水和剤 2000～ 4000倍 (収穫前日・3回)を散 布する
12月 上旬		⑧トルネードエースDF	1000～ 2000倍 (収穫7日前)	2回	コナガ	コナガが多い場合は⑬ハチハ チ乳剤1000～2000倍 (収穫14 日前・2回)、アザミウマの場合 は1000倍を散布する
中旬						
下旬						
			⑨グレーシア乳剤	2000～ 3000倍 (収穫7日前)	2回	コナガ ウワバ類 アオムシ

☆みんなで守ろう生産基準